



多くのデザイナーがギルディング和紙に注目。齋藤氏とコラボし、国内外に向けて新しい和紙と日本文化の魅力を発信している。



大洲和紙にデザイン型に合わせて特殊なノリを塗り、その上に載せた金属箔をローラーで接着。刷毛で余分な箔を取り除くとデザイン柄が浮かび上がる。



古来より和紙の原料こうぞ、みつまたの産地であり、清流に恵まれ和紙づくりに最適な内子町では、紙漉の伝統技術が、いまま町民に息づいている。

# 愛媛県内子町で日欧の伝統文化が融合 銅箔和紙 オンリーワンの美

愛媛県内子町で日欧の伝統文化が融合



## 和紙と木蠟と大風の町・内子町

秋深まる10月中旬、愛媛県松山空港へ。今回は、いま国内外のインテリア分野などで注目される銅箔を巧みに使った「ギルディング和紙」の製作現場を探索する旅だ。製造・販売元の株式会社五十崎（いかざき）社中は、空港から車で小一時間ほど南下した喜多郡内子町五十崎にある。

内子町の中央には、江戸の旧街道を保存した「へんろ道・こんびら街道」が走る。250mほど旧家が立ち並ぶ町並みは風情があり、いまにも町角から「エイホッ、エイホッ」と、駕籠（かこ）が飛び出してきそう。一方、昔から職人が多く住む五十崎地区は、江戸時代に、大洲（おおす）和紙と、木蠟（もくろう）で栄えてきた。正倉院文書にも記される大洲和紙は、良質な書道半紙や障子紙として、いまなお評価が高い。これを材料につくる約5000枚の大風（おほり）の合戦は、400年の歴史を誇る伝統行事で、地元の小中学校なども参加し、盛大に催される。しかし現在、大洲和紙を製造しているのはわずか4軒。その一つが、東京でシステムエンジニアとして働いていた代表取締役 齋藤宏之氏が起こした（株）五十崎社中だ。「大洲和紙を作る妻の実家から、内子町商工会が、日本の伝統文化・工芸品を世界に発信するJAPANブランドに登録認定され、大洲和紙を広めるチャンスだ」と聞き、ならば自分がと、まったく畑違いの世界に飛び込みました。坂本龍馬が好きで、彼の設立した亀山社中から社名のヒントをもらい、2008年に起業しました」と齋藤氏。

## ガボー氏秘伝の技を大洲和紙に

ギルディング和紙の発想は、どこから生まれたのだろうか。「ギルディングは、銅・金・銀・アルミなどの金属箔で額縁を装飾するヨーロッパの伝統技法です。これを壁紙に応用したのが、ハンガリーのデザイナーのガボー・ウルヴィツキさん。彼の技を大洲和紙に活かす、地域産業を盛り上げたとい、内子町商工会がJAPANブランドの助成金を使って町に招き、私が日本での一番弟子となりました」

ガボー氏は、弟子を取らない主義だが、日本文化をこよなく愛し、和紙のためならと依頼を快諾。町の古民家に家族で移住し、2年間マンツーマンで齋藤氏を指導した。「ガボーさんは、私よりも日本の伝統文化に詳しく、ギルディングの技法はもちろん、様々な影響を受けました」ギルディング和紙の工程について何うと「秘伝の技でお見せできないところもありますが」と、目の前で基本工程を実演してくれた。「当地には清流・小田川が流れ、大洲和紙に不可欠な水を確保しています。手漉きした紙を何枚も重ねプレスして水を抜き、一枚の厚い和紙に仕上げます。デザイナーの要望に合わせて透かしを入れたり、糸状や網目状と特殊な形状にも、ペタラン職人が一つひとつ丹念に仕上げていきます」



和紙製造を支える清流・小田川

## デザイナーと競演し国内外へ

和紙の上には、プロのデザイナーが考案したデザイン図柄を写した型を用い、金属箔を定着させるノリを塗っていく。「一度乾かすことで粘り成分が出てくるこの不思議なノリも、ガボー氏が考案した技です。和紙は布と同じで水分を吸うため、季節により湿度を考慮して使い分けます」粘りは1週間も持続し、デザインを活かすため、どの金属箔を使用するかをじっくりと検討していくことができる。

「銅箔は、酸化させることで複雑な色味を表現できます。様々な薬品を用い、どんな色が出てくるかを想像するのが楽しみ」と話しながら、齋藤氏は、和紙に銅箔を載せるとブラッシングをはじめた。すると余計な銅箔が剥がれ、ノリ部分のデザイン図柄が独特の風合いで浮かび上がってくる。「良い味になるでしょう。和紙は素材としての用途が広く、障子や襖、壁紙などのインテリアからステーションナリーやステンドグラスまで様々な商品提案ができます。重要なのはデザイナーたちの協力です。いま新進気鋭の女性デザイナーともコラボし、若い女性向けのブックカバーなども制作しています。和紙は海外でも注目されていますが、ギルディング和紙は、世界オンリーワン。これからも和紙の可能性を世界中に発信していきますよ」



株式会社五十崎社中 代表取締役 齋藤 宏之氏



襖や障子、壁紙、タペストリー、スタンドグラスなどの室内装飾から、レターセットやブックカバーなどのステーションナリーまで。ギルディング和紙の用途は、無限に広がっていく。



手漉き和紙の持つ丈夫でやさしい風合いとギルディング（金属箔）を融合。優雅で華やか、変貌自在な表情を魅せてくれる。



趣きある内子町の町並みは重要伝統的建築物群保存地区に指定されている



2016年に100周年を迎えた「内子座」は、いまま現役の芝居小屋として活躍中。



※木蠟：ウルシ科のハゼノキの果皮を蒸し圧搾して抽出した油脂。